

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401178		
法人名	社会福祉法人朝日福祉会		
事業所名	グループホーム花応園		
所在地	長崎県雲仙市国見町神代甲952		
自己評価作成日	令和2年7月22日	評価結果市町村受理日	令和2年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和2年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

有明海を望む高台に、通所介護、高専賃、有料老人ホーム、支援ハウス、保育園等の施設があり、施設間の交流もあり、敬老会(桃源園にて)、夏祭り、保育園の運動会など、近隣の方や保育園の保護者、子供たちとのふれあいがあり、喜んでいらしゃいます。毎日入浴の時間を設け、ゆっくりと、入浴を楽しんでいらしゃいます。職員と利用者のふれあいの時間として、食後の時間を大切にしています。職員一同、皆様が明るく、元気に楽しく、その人らしく、暮らせる様に支援させて頂いてます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

多くの花木に囲まれた自然豊かな環境の中、当法人が運営する通所介護事業所やサービス付き高齢者向け住宅、保育所などの関連施設と連携を図りながらホームを運営している。開設から15年目を迎えた現在、職員はホームの理念である「入居者が、地域の中で自分らしく過ごせるように」をモットーに、入居者一人ひとりの希望やタイミングを考慮した入浴支援や、入居者及び家族が希望するかかりつけ医への受診支援など、入居者本位の支援に努めている。夜間帯や緊急時には迅速に受診できる医療連携体制を整えるとともに、週1回理学療法士による訪問リハビリでの専門職からのリハビリの注意点や介助方法に関するアドバイスを日々の支援に取り入れることで入居者の身体機能の維持に努めている。現在、コロナ禍で行事や外出が制限されている中、誕生会には入居者と職員と一緒に手づくりのケーキを準備し歌を唄って祝うなど、入居者を支え、入居者及び家族から安心感を持ってもらえるよう努めているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

花応園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で自分らしく過ごす、という理念を掲げ頑張ってます。	ホーム理念は食堂に掲示するとともに、管理者から職員に話すことで意識付けを図っている。また、毎年理念をもとに目標を設定し、普段の支援の中で理念が実践できるよう取り組んでいる。今年は「感染症に注意する」という目標を掲げ、感染防止対策を強化している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々との交流は、行事に参加する事で声掛けをして頂いている。	ホームでは毎年、同法人保育所が行う運動会・七夕祭りへの参加や地元中学生の福祉体験受け入れのほか、ホーム行事に入居者家族や友人、地域住民が参加している。入居者の離設(施設を離れる行為)があった場合には近隣住民から知らせてもらったり、敬老会の際に入居者の住んでいた地域から饅頭をもらったりするなど、地域との積極的な交流が窺える。尚、今年はコロナ禍のため行事はホームのみで開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	文化祭など、町内の行事に、数名だけでも参加するようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	身体拘束や、利用者の状況報告、自己評価や外部評価の報告、研修報告などを行っている。	運営推進会議には島原地域広域市町村圏組合職員・民生委員・家族・施設長・職員が参加し、入居者状況や事業計画、身体拘束に関する報告を行い、話し合いの結果を運営に活かしている。会議前には当番表を家族に送付し、全ての家族にできるだけ参加してもらえよう工夫しており、会議欠席者や他の家族には議事録を掲載した便りを送付し、会議の内容を知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査の方や、推進会議の担当者には、伝えている	行政担当者には運営推進会議に参加した際にホームの状況を伝えており、ホームに対する意見や要望のほか、地域や介護保険に関する情報を得ている。また、遠方に暮らす家族から医療費の限度額適用について問い合わせがあった際に市福祉課職員へ手続きの仕方を聞いたり、相談したりするなど、協力関係の構築に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、グループホーム協会の研修や、広域圏組合の研修に参加している。また、推進会議でも、報告をしている。	ホームでは2か月毎の運営推進会議の際に身体拘束について話し合いを行うほか、昨年は身体拘束に関する外部研修に参加し、研修内容を職員間で共有することでどのような行為や言動が身体拘束に該当するのか意識付けを図っている。転倒防止を目的とした見守りセンサーを家族同意のもと居室に設置しているとのことだが、ホーム玄関は施錠せず身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても研修に毎年参加している。言葉かけについては、まだまだ、問題がある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要な方は、いらっしゃらない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に対し契約時に、説明している。要望も尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、ほとんど回答がない。	家族の意見や要望について、ホームでは運営推進会議や面会の折に聞くよう努めている。面会時に聞き取った意見や要望は朝の申し送りや業務日誌に記載することで共有し、運営に反映している。また、運営推進会議議事録を掲載した便りを家族へ送付し、ホームでの入居者の様子を知らせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議で情報交換、行事予定等話し合っていたが、現在、必要な時だけの開催になっている。	ホームでは2か月毎の職員会議に加え、話し合いが必要な場合はその都度全職員で話し合いの機会を設けている。職員の意見や提案は管理者から法人代表へ伝えることで運営に反映しており、職員のモチベーションに繋げている。管理者は喀痰吸引等研修など職員の資格取得希望に応じて勤務シフトの調整を行うなど配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自分たちの思いどおりに運営させて頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得試験等、受けるように声掛けしている。広域圏の研修やグループホーム協会の研修等全員がどれかの研修に参加する様に、しているが、今年度はコロナウイルスの影響で研修が中止や延期になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の役員会や研修で情報交換しているが、今年度は、役員会等、コロナウイルスの為、ひらけていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	法人内入居者がほとんどであるが、他の居宅介護支援事業所からの相談、入所も増えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、相談は何時でも受け付けている。入所前については、面会したり、空き次第連絡を入れる様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の居宅ケアマネジャーを通して、相談に来られる事がほとんどである。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の時間を大切にしているので、会話や歌をうたったり、レクレーション等を通して、教えたり教えられたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室に関しては、家族や、利用者様に任せている。出来るだけ、面会に来て頂けるようにしているが、家族が遠方の方もいらっしゃるので、個人差が激しい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人からの要望は、ほとんど無い。通所介護利用者の中には、近所の人や、知り合いの方がいらっしゃるの、面会していただいていたが、コロナウイルスの為、出来るだけ、控えていただいている。	職員は入居者の家族や友人・知人が面会に訪れた際にお茶や話題を提供し、両者が楽しく過ごせるよう支援している。現在、コロナ禍にあるため面会を制限しているが、家族等への面会制限に関する説明や、面会できないことで入居者が不安に感じないようにその都度説明し納得してもらえよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日の調子で変わるが、支えあえるように声掛けしている。場合によっては、職員が間に入っているようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどが死亡の退所で、入院中は面会したりして、家族とも、コミュニケーションを取るようになっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	尋ねても理解出来ない方もいらっしゃるが、出来るだけ、表情や行動で理解、把握する様に努めている。	職員は入居者の表情を観察するとともに普段の会話の中で思いや意向を聞くことで、暮らしの希望を推察し把握するよう努めている。リビングのソファでテレビを観る入居者にエアコンの風が直接当たらないよう職員が配慮するなど、本人本位に検討し支援する姿勢で関わっていることが窺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に話を聞いている。また、本人が話せる方は、本人の意向を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い、その日の、体調や、心身の状態を見て過ごし方を判断している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者と家族の意見を聞き、モニタリング表を作成し、職員で話し合っている。	ケアプランはモニタリング実践記録表をもとに計画作成担当者が作成し、職員間での話し合いを経て入居者の現状に即したプランを作成している。また、週1回訪問リハビリを通じて理学療法士からのリハビリに関する注意点や介助方法に関するアドバイスをプランに記載し、入居者の身体機能の維持に繋がっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気が付いたことは、書くようにしているが、個人差が激しい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家に帰りたい。とおっしゃる方は、家族の協力のある方は、自由に外出して頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同じ事業所を通して、地域とつながるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかられていた病院をそのままかかりつけ医としている。また、園独自に、愛野記念病院との関係を持ち、月1回往診をして頂いている。急変時や夜間の受け入れの対応もして頂いている。	ホームでは入居者本人及び家族が希望するかかりつけ医を職員による同行支援により受診するとともに、月1回ホーム協力医による訪問診療も行っている。また、夜間帯や緊急時にも迅速に受診できる医療連携体制を整えており、入居者本人及び家族の安心感に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院受診も、職員全員が行っているため、情報も職員全員が共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	出来るだけ早く退院出来る様に相談したり、地域連携室を訪ねる様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い、看取りについてのアンケートを実施したり、園が対応できる最大のケアについて説明している。	管理者は昨年参加した外部研修会で看取り支援の必要性についてあらためて認識し、入居時に意思確認書を書いてもらうことで入居者・家族の看取りの意向を確認している。また、ホームで対応できる支援内容についても事前に説明し同意を得ている。重度化した場合は入居者本人・家族・医師・看護師・職員による話し合いの機会を持ち、医師の判断で入院している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成している。職員全員が普通救命講習を受講するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災訓練については、定期的に行っている。災害に対する話し合いも行っている。	ホームでは年2回、日中・夜間想定での自主避難訓練や地震を想定した自主防災訓練を実施している。訓練には地元消防団の参加があるほか、敷地内の同法人施設職員による協力体制や、元運営推進委員である民生委員にも協力を依頼し、有事に備えている。また、昨年度の台風被害による停電や地震による被害を想定し、鍋で炊飯する訓練を行っている。	消防組織図や設備点検表等を整備しているが、情報の更新が滞っているため、現状に即したものに改善し、職員への意識付けを図ることが望まれる。また、職員の役割分担について訓練時のみ決めていたことだが、例えば職員が自分の役割を確認できるように掲示するなど、有事における早期対応へ繋げることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては、馴れ合いになってたり、厳しい声掛けになっている時がある。職員同士でも、注意できる環境にできるようにしたい。	職員は入居者への対応が馴れ合いにならないよう、声掛けの際には苗字にさん付けで呼ぶようにしている。職員は通常、外部の接遇研修に参加し意識向上に努めているが、現在コロナ禍により中止しているため、ホーム内で研修を行っている。職員に不適切な言葉遣いがあった時には職員同士で注意し合うほか、支援内容を振り返る機会を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が決める場面も作っているが、重度化に伴い、決めることができない方もいらっしゃる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全部を利用者の希望どおりにすることはできませんが、出来る限り対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は、家族が持ち込まれた物です。髪については、家族がカットしてくださったり、園でカットしたりと、いろいろです。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員ではないが、能力に応じてできる範囲で、いろいろと手伝って頂いている。	食事は同法人の栄養士が作成した献立をもとに職員が調理しており、ミキサー食や刻み食、トロミ食など入居者の状態に合わせた食事形態で提供している。食事の際には職員も一緒に食し、食後も会話を楽しむなど家庭的な雰囲気が見える。誕生会には入居者と一緒に手づくりのケーキを準備し、歌を唄って祝うなどしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常的とはいえませんが、飲み物は、何種類か用意している。家族が持って来てくださったものは、利用者全員で頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は、声掛け、誘導している。出来ない方は、職員が介助している。夜は、義歯の方は、洗浄液につけるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行っている。尿意便意のない方、時間を見て誘導する事で、トイレでの排泄が出来る様に支援している。	日中は職員が時間を見て適宜声掛けすることでトイレで排泄できるよう支援しており、尿取りパットを使用して過ごせる方が多くいる。夜間はポータブルトイレを使用することで排泄による移動を減らし、入居者が安眠できるよう配慮している。また、尿取りパットの大きさについて職員間で検討し、適正な使用量や費用軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動を行い、便秘対策に取り組んでいるが、ほとんどの方が、薬を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒む方はいらっしやらない。毎日入浴する事で、入浴が当たり前になっている。その方にあった入浴が出来る様に支援している。	ホームでは午前・午後・毎日浴といった要望に対応しており、職員は入居者一人ひとりのタイミングを考慮し、ゆっくりと湯船に浸かることができるよう支援している。また、重度の方も湯船に浸かることができるようリフト浴を使用し、安全に留意した入浴支援に努めている。皮膚疾患のある方には処方薬の軟膏やホームで準備したワセリンを塗布し、皮膚疾患の予防に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促して生活リズムを整える様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬局で頂く薬の説明書をファイルしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日とはいかないが、出来るだけ、行事等工夫するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化に伴い、全員とはいかないが、出来るだけ、季節や地域の行事に応じて戸外に出かける様にしているが、今年度は、コロナウイルスの為、ほとんど外出、出来ていない。	職員は天気の良い日にはホームの花木が見渡せる場所での散歩や、車椅子の方とともに敷地内にある有料老人ホーム前の自動販売機まで飲料を買いに行き、入居者の気分転換を図っている。コロナ禍で外出支援が困難な状況にあるが、今後はドライブで紅葉見学に行くなど可能な範囲で外出できるよう計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で管理している。夏祭りで買うくらいで、店で購入することは無い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りを行う方はいらっしゃらない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂からは、有明海が見渡せ、近所も見渡せる。すぐ下には、グラウンドがあり、保育園児の遊ぶ姿や、色々な花木を楽しむことができる。	ホームダイニングの窓からは隣接する同法人保育所のグラウンドで遊ぶ保育園児の姿や運動会の練習風景を見ることができ、入居者にとって楽しみとなっている。リビングに設置しているソファでテレビを観て寛ぐ入居者の姿があり、職員による空調の調整で快適に過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをいろんなところに置いており、それぞれに応じて好きなところにすわっていただける。居室にも、自由に出入りできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋作りについては、家族にお願いしている。持ち込みも色々です。	居室には入居者馴染みの整理筆筒や観葉植物、位牌などを持ち込むことができ、入居者個々に合わせた居室づくりに努めている。ポータブルトイレには色鮮やかな布で目隠しをする工夫をし、明るい雰囲気のある居室となっている。居室入口には自分の部屋が一目でわかるようカタカナの表札を準備するなど、場所の見当識に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせて配置や、補助具等を利用している。		